

エゴノキ	学 名 Styrax japonica 別 名 チシャノキ 分 類 エゴノキ科エゴノキ属（落葉高木） 分 布 北海道（日高地方）、本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、中国、フィリピン北部 用 途 くり物、傘のろくろ、床柱、玩具、杖、駆虫剤、肥料
解 説	雑木林などに普通に生え、高さ7～15mになる。幹はあまり太くならず、根もとから何本もでて株立ち状のよく目立つ樹形になる。樹皮はなめらかで暗紫褐色を帯びる。2年目の枝の表皮は糸状にはがれる。葉は互生し、長さ4.5～8cmの長楕円形で先端は鋭くとがり、基部はくさび形。ふちは細かい鋸歯があるかほとんど全縁。裏面は脈に沿って星状毛が散生するかほとんど無毛。葉柄は長さ5～10cmで基部は冬芽を包まない。5～6月、今年のびた短い側枝の先に白い花を1～4個下垂する。花冠は長さ1.5～2cmで深く5つに裂け、星状毛が密生する。雄しべは10個で花冠より短い。花糸の下部に星状毛があり、基部は花筒に合着する。花柱は雄しべより長い。萼は長さ3～4cmの杯状で先端は5浅裂し、果期にも残る。花柄は細く長さ2.5～4cm果実は長さ1～1.3cmの卵球形で灰褐色。果皮は星状毛が密生し、縦に裂けて落ち、褐色のかたい種子が1個残る。種子は卵形で長さ約1cm。果皮にはエゴサポニンが含まれていて、新鮮な果実を洗濯石けんのかわりにしたり、麻酔効果があるのですりつぶして川に流し、魚とりにつかったりする。伊豆諸島や沖縄以南のものは葉や花が大きく、オオバエゴノキとして区別されることがある。
	枝・葉
	幹
	花
	実